

なんとカンファレンス2018春

なんとカンファレンス実行委員会

〒631-0046 奈良県奈良市西千代ヶ丘3丁目11番5号

助成事業の概要

当初、平成29年10月29日（日）に『なんとカンファレンス2017秋』として開催予定でしたが、同日に台風22号が近畿地方を通過、大雨警報が発令されたため、参加者の安全確保の観点から開催を中止、ほぼ同じ内容で『なんとカンファレンス2018春』を企画しました。

第8回目に当たる『なんとカンファレンス2018春』は次の2項目を重点項目として企画しました。

- (1) 障害支援に関する最新情報の提供の場としてのカンファレンス
- (2) 障害支援に関する一般参加者の発表を提供するカンファレンス

午前の部として、障害者が使用する視線入力機器開発の第一人者で、NHK主催の教育・教養番組の国際コンテストである第44回『日本賞』を受賞された島根大学助教の伊藤史人さんをお招きし、子どもたちがいきいきと輝くための「ICT活用教育」とは何かについて、ご講演いただきました。

午後の部では、障害者作業所所長、ICT機器開発、特別支援学校教員など5名のさまざまな障害支援のスペシャリストによる『専門店』（セミナー）を開催、また一般参加者飛び込みによる『屋台』（ワークショップ、展示）も同時開催、参加者全員が交流し、情報発信できるカンファレンスを目指しました。

事業の成果

今回のカンファレンスはこれまでで最も多い97名（中学生以上）の参加者にお越しいただきました。

午前の部の伊藤先生の講演会では、実際に伊藤先生が支援に関わって重度の障害者の方々とオンラインで中継をしながら、実際の支援の様子やお話を見ながらの双方向のコミュニケーションの取りながら進められました。そして、重度障害者が社会生活を営む上では、積極的なコンピュータの活用が不可欠であること、特別支援学校のICT教育は社会生活を前提とした教育を行うことが重要であり、「支援学校に行ってよかった！」となるように、子どもたちの卒業後を考えたICT活用教育が必要であるとお話いただきました。

午後の部は実行委員会から依頼した以下の5名による障害支援の専門家による『専門店』（セミナー）を開催しました。（敬称略）

- ・中鶴珠代 【大学生生活・卒業・就職活動～合理的配慮を受けての就労への道は今】
- ・織田晃嘉 【スパイダーと各種機器を活用した実践について】
- ・田中紀行 【自立活動のICT機器やAACツールを使った特別支援教育のアプローチ方法について】
- ・高松崇 【ICTオタクの店主が原点回帰・2】
- ・高橋浩 【感覚と運動の高次化について】

また、一般参加者による以下のような『屋台』（ワークショップ、展示）を行いました。

- ・タブレットやPCを中心とした余暇の幅を広げ

る提案

- ・グリコード（お菓子によるプログラミング）の実践
- ・視線入力によるスイッチトイの操作に関するデモ
- ・ノート PC の視線入力・スイッチ・タッチのデモ
- ・コミュニケーション能力に特化した障害度分類に活用
- ・Goodjob センター香芝（作業所）の紹介・販売
- ・誰にもやさしい字体である UD フォントのご紹介
- ・Droptalk（コミュニケーション支援ソフト）の紹介・販売

終了時にはアンケート代わりに「スタッフに伝えたい心温まるエピソード」「次回のカンファレンスに期待すること」「これから障害支援は〇〇だ」「これから私は〇〇します」の4つのお題に対して参加者全員に模造紙に意見を書いた付箋を貼っていただき、意見交換を行いました。

成果の広報、公表

特に印刷物としての成果の広報・公表は予定しておりませんが、今回のカンファレンスで得られた意見は随時、なんとカンファレンスの公式 Facebook ページや開催イベントを通じてお伝えする予定です。

今後の展開

今回のカンファレンス開催における2つの重点項目である『障害支援に関する最新情報の提供の場としてのカンファレンス』『障害支援に関する一般参加者の発表を提供するカンファレンス』については、概ね目的を達成できたものと考えられ

ます。

今回の講演会や『専門店』『屋台』では、障害を持つ当事者の学校生活・社会生活へのスムーズな参加が大きなテーマになりました。現在、社会的に「障害支援」が抱える問題でもある、このテーマをさらに掘り下げるべく、就労支援や社会参加の方法の最新情報をセミナーやワークショップとして提供することが、今後のカンファレンスの重要検討事項のひとつであると考えられます。さらに予想以上の「一般参加者の発表」希望者が多かったことから、より活発な参加者同士の交流が図られる場を作っていくことを進めていきたいと思えます。

また、今回は奈良県教育委員会のご協力で公文書に添付する形でのイベント告知や多くの障害支援に関するイベントやフリーペーパーの広告宣伝により、これまで以上の参加者募集ができました。今後は各機関の後援を取り、より効率的かつ広域的にイベント告知を行う方法を検討したいと思います。